

新潟理窓 第十七号

御 挨拶

前支部長
若井 静男



会員の皆様には
喜び申し
御健勝の
こととお
喜び申し

上げます。平成十五年度の新潟県支部
総会も上越支部の役員及び会員の方々
の御協力で多くの皆様から出席いた
き盛会裡に終わりました。理窓会の本
部から東京理科大学教授・理窓会常任
幹事の森田昌宏先生においでいただき
理科大の現状と未来についての御説明
と「建築火災」と題して示唆に富んだ
講演をいただきました。森田先生には
大変無理なお願いでしたが快くお引き
受けいただき心から感謝いたしてお
ります。

皆様も御存じのように、大学の先駆
的な研究に予算を重点配分する文科省
の「二十一世紀COE（卓越した研究
拠点）プログラム」として全国の大学
から五六校、一三三件が本年度選ば
れました。森田先生の火災についての研

究はその中の一つとして採択されまし
た。

新潟県支部の会員の皆様の中にも多
くの薬学部卒業生がおられますが、
母校理科大の薬学部は本年度から野田
キャンパスへ移転しました。五月三十
一日に野田キャンパス薬学部新校舎で
「薬学部創立四十周年・新校舎竣工式
典」が盛大に行われたとのことでした。
東京理科大学同窓会発行の「理窓」に
よりますと移転後の薬学部について、次
のように記載されています。

「約五〇万㎡の広大なキャンパスで
薬学部は既存の学部学科の仲間入りを
した。そして、お互いに共通したプロ
ジェクトをもち、垣根を低く連携しリ
サーチパーク構想も決まっている。将
来は野田地区の生命系が一つにまとま
り、生命科学・医療科学の研究・教育
の拠点が出来ることもそんなに遠いこ
とではない」と。薬学部が移転し、野
田キャンパスの未来はますます明るい
のではないのでしょうか。二年後には常
磐新線が開通し都心から三〇分で通学
ができ大変便利になるとのことです。

ります時、その行間から過去の新潟県
支部の歩みも読み取れ、懐かしい会員
の皆様を思い起こしていただけると思
います。発行に携わっていただいた、
県幹事長、役員の方々の御苦労に心か
らお礼申し上げます。

新潟県支部長をお引き受けして二年
間、微力の私でしたが無事その任を終
えることができました。これも副支部
長・幹事・先輩各位はもとより会員の
皆様のお蔭と心から感謝いたします。
新潟県支部のますますの御発展を祈
念して御挨拶いたします。

御 挨拶

新支部長
雅楽 隆伸



この度、平成十五年度理窓会新潟県
支部総会（八月二四日）で、選任頂き

ました昭和四十三年理学部応用物理学
科卒の雅楽隆伸（うた たかのぶ）で
ございます。県立巻工業高校長から今
年四月に県立村上桜ヶ丘高校長に転任
し、村上市で勤務いたしております。

支部総会には、母校東京理科大学理
学部数理解報学科教授で東京理科大学
総合研究所火災部門長の森田 昌宏先
生をお迎えし、「建築火災」と題して、
御講演頂きました。森田先生は、理窓
会常任理事、総務担当でいらつしや
います。御講演の中で文部科学省の「二
一世紀COEプログラム」の中に東京
理科大学も「建築火災の部門」で選ば
れたと伺いました。

また、昨年度から新生薬学部の誕生
にあわせて、日本の大学で初めての研
究施設「ゲノム創薬研究センター」の
開設等々、お話を伺う中で、母
校の益々の発展を誇らしく感じました。
本県の同窓生も年々民間企業に就職
され、活躍される方が増加しており
ます。多様な分野の多くの同窓から参
加いただくには如何にしたらよいか。
他県の支部では、ホームページを開設
する等の工夫もありません。魅力ある
理窓会・新潟支部となるよう、若井静
男前支部長の後任として微力ですが、
事務局の御援助を得ながら、精一杯頑
張りたくと考えておりますので、御指
導・御援助の程をよろしくお願い申し
上げます。



21世紀COEプログラム (世界的に優れた研究・教育拠点)

平成14年度(113件)	平成15年度(133件)
生命科学(28件)	医学系(35件)
化学・材料科学(21件)	数学・物理・地球科学(24件)
情報・電気・電子(20件)	機械・土木・計測・その他工学(23件)
人文科学(20件)	社会科学(26件)
学際・複合・新領域(24件)	学際・複合・新領域(25件)

審査基準

- ①優れた成果を上げていて将来の発展性もある
- ②学長の指導力の下で体系的な将来計画と強い実行力がある
- ③特色のある学問分野の開拓で独創的・画期的な成果が期待できる

理大教授・森田昌宏先生の
COEプログラムとは！



平成15年度 理窓会新潟県支部総会

2003.8.24

新潟県支部総会

平成15年8月24日(日) 理窓会新潟県支部総会が上越地区のお骨折りによ
り、高田ターミナルホテルで開催され
ました。

総会での議事の内容につきましては、
後述のとおり承認されましたこと報告い
たします。



今回は理窓会本部より理学部教授・
森田昌宏先生にお出でいただき、大学
の現状説明と、ご研究の「建築火災」
について講演を賜りました。先生には、
二部の会までおつき合いただき、心
より感謝申し上げます。

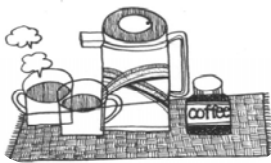
なお、県支部総会につきましては、
手違い等により、案内が届かないこと
もあろうかと思われます。皆さんで周
りに声をかけていただければと願って
おります。来年度は下越地区の当番と
なっておりますが、何卒よろしくお願
いいたします。

役員改選

支部長 雅楽隆伸

副支部長 田村 仁

上野茂男
村山宥一
新保 隆



地区幹事 平成十五年度版名簿に記載

県幹事 平成十五年度版名簿に記載

顧問 平成十五年度版名簿に記載
(今年度、次の方々に新規委嘱)
若井静男
田中 実

申し合せ事項の追加

- (7) 地区幹事選出の困難な
地区もあることから、県
幹事の人選については、
当分の間、地区幹事を考
慮し支部長が委嘱するも
のとする。

平成十四年度事業報告

- 支部役員会開催 6月29日 新潟会館
- 支部総会開催 8月25日 パストラル長岡
- 会員名簿発行(8月版) 8月25日 A426頁50部
- 研修会開催 10月6日 新潟会館
- 会員名簿発行(12月版) 12月16日 A426頁60部
- 会報「新潟理窓」発行 12月16日 B58頁450部

平成十五年度事業計画

- ・支部役員会開催
6月29日 新潟会館
- ・支部総会開催
8月24日 高田ターミナル
ホテル
- ・会員名簿発行
8月24日
- ・研修会開催
9月27日
- ・会報「新潟理窓」発行
10月下旬

平成十四年度会計収支決算

○収入の部	
繰越金	24,368円
会費	108,350円
臨時徴収	50,000円
雑収入	4,428円
合計	187,146円
○支出の部	
支部総会補助	25,000円
支部還元金	13,600円
名簿・会報	6,020円
送料	18,590円
事務用品	4,557円
資料代	1,000円
合計	69,349円

平成十五年度会計予算

○収入の部	
繰越金	117,797円
会費	100,000円
雑収入	203円
合計	218,000円
○支出の部	
支部総会補助	30,000円
支部還元金	20,000円
名簿・会報	20,000円
送料	34,000円
事務用品	10,000円
資料代	4,000円
予備費	100,000円
合計	218,000円



御挨拶

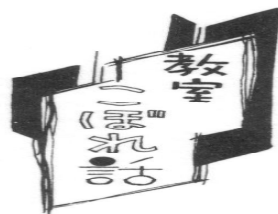
副支部長
村山 宥一

八月の総会で副支部長という大役を仰せつかりました。理大を卒業して高校教員となつて以来、理窓会の先輩からはずいぶんとお世話になつて参りました。今度は微力ですが、理窓会新潟県支部の会員のみなさまと県支部の発展のため努力をして参ります。ますますの御指導 御支援 御協力をお願い申し上げます。

私はこの四月、県立安塚高等学校長を拝命し、上越地区に初めて赴任しました。教員になつた時は佐渡地区、その後は中越地区、下越地区と勤務させていただきましたが、これで県内すべての地区を経験させていただくことになりました。ありがたいことです。なお、新任校には同窓生が一人もおりません。たしかこれまでの勤務校で同窓生がいなのは初任校と現任校だけではないかと思ひます。大きい学校に勤務したときは四人の同窓生がいたこともあります。

さて、私の単身赴任の生活を豊かにしてくれるのが一台のノートパソコンです。十年ほど前に始めたインターネットは便利になり、いろいろに使えます。不定期ながらメールに「家族通信」を添付して楽しんでいます。今、家族は長女が独立、大学生の長男と女房が自宅、そして私と三つに分散。しかし、分散している家族はインターネットで結ばれているというわけです。忙しいときはデジカメで撮つた写真をメールに添付するだけということもあります。が「電話」とともに家族の絆を支えてくれています。その他に仕事で必要な書類や資料はすべてパソコンの中に入り、デジカメで撮つた写真、好きな音

楽CDの録音（何年前から凝っている東儀秀樹、最近ではチェンミン、クラシック等々）も入っています。これはCDや録音テープを持ち歩くよりずっと便利です。音質はヘッドホンで聴くなら問題ありません。さながら私のパソコンはドラえもん「何でもポケット」のようす。



御挨拶

副支部長
上野 茂男

最近、「間」といふか物事のタイミングのようなものが実に大切なものであるかといふことを実感した。よく言われる「行列のできるラーメン屋」のこと。その日は混み合う時間帯を避けて早めに行った。テーブルに着いて注文したところ、途端にサツと出てきたのである。どうしてこんなに早いのか

と驚いた。どうも駐車したときに降りてくる人数をみてすぐに麵を入れたらしい。楽しみにしてきたからすぐに流し込む。店は未だ空いていたが何となく気を急かされて店を出た。それにしてもどうも満足感がないのである。・原因は考える暇もなく食べたからだと気がついた。

待ち時間とは、水を飲みながら店内を見回す、メニューを見る、あちこちの客の様子を見る、自分の麵の工程がいまどの辺かを眺める。こうして麵のできあがる時間と合わせて食欲としての「食べる」という気分を醸成させていくものらしい。

この食べるまでのプロセスとしての時間を省くところになると気付いたのである。

「味」というものは美味しいものとはどんな状況でも美味しいという絶対的なものではないらしい。こちらは「食べる」という意欲は充分、店主も味は自信满满、にもかかわらずタイミングを間違つと両者の意欲と自信も台無しになる。たった五百円でしかもこの歳になつてのことではあるが小さな発見に感心やら情けないやらの思いに駆られた次第である。

そしてまた「人を観て法を説け」とおり、「いつ何を教えるか」を最大のテーマに三十年以上もこのことを生業にしてきたものとして、右のような想

いをどれだけ多くの生徒に与えて来たことかと考えさせられてしまうのである。このたび理窓会新潟支部の役員を仰せつかることになりました。



います。よろしく御願いたします。

支部長の御指導をいただきながら務めを果たして行きたいと思

越 前 だ び

私と将棋

51 理・応化

永井 弘志

将棋を覚えたのは、小学六年生の頃だった少しでも強く成りたいと思ひ、新聞の将棋の欄を切り抜いてお菓子の空箱に入れておき時々出しては棋譜を並べて気分は名人になつていた。だが家庭訪問のとき、担任の先生に母がそのことを話した為、後日その位漢字の勉強もした方が良ひよと言われた。その後空白期間があつて、高校生入学後少し思ひ出したようにまた指



しはしたが、何分にも当時は学校内でゲーム等をする事は禁止されており(今でも禁止?)私の上達への道は閉ざされていた。理大入学同時に将棋部に入部した。そのころ理大は関東大学リーグ戦でA級とB1級を入つたり来たりする強豪であつた。実力のある部員が多く私がリーグ戦のメンバーとして登録されたのは3年生の秋の大会からであつた。でも個人戦や二軍戦(登録されない者が参加)ではそこそこの成績を収められたと思つている。卒業時には将棋連盟より三段の認定証を頂くことができた。何も代え難いことは、他学部や他学科の友人ができたことである。



ものづくりの経験

H11 理・化

鷗川 菜採

私が勤務している直江津工業高校は高田工業高校との統廃合により平成十六年度をもって閉校となります。そのため使用している部屋の片付けが始

りました。高校の理科準備室・実験室の片付けとなると(どの学校もおそらくそうでしょうが)あまりにもものが多く、中には私が生まれる以前からの備品もあり、いったいどのように使うものだらうかと宝さがしをしているような気分になりました。



な中、思うことがあります。整理をしているとかつて勤務していた先輩の実験道具が次々と発掘(?)されます。それは手作りのものが多く、とても工夫されていて感心させられるものばかりです。

最近は何でも簡単に手にはいる時代です。欲しいものがあつたら大抵のものはショップやインターネットで見つけることができます。そのせいか、私を含めものをつくるという経験に大変乏しい気がします。

大学一年の初めての實習はガラス細工でした。欲しい器具がなかったら自分で作るものだどと教授が言っていたのを思ひ出します。先輩達に見習つてものづくりのすばらしさも教えてゆくことができたらと感じつつ、あふれ続けるものたちと格闘する毎日です。



理科大生だった頃を振り返って

H1理・応数
大橋 精崇



昭和から平成にかけての激動の時代を、東京理科大学の学部生として過ごし、卒業後、新潟県の公立高校で数学の教鞭を執るようになってから、はや十四年が経とうとしています。

当時は学生用の大型コンピューターが6号館に一台しかなく、プロگرامミングの授業の課題では、放課後になると順番待ちの列の最後尾に並び、何十枚ものパンチカードを大型コンピューターに読み込ませて、その後の出力結果が出るまでの数時間を、大学生協や談話室などで過ごし、出力結果にエラーがあるとその場で消しゴムと鉛筆で訂正をし、課題提出締め切り日が頭にちらつく中、祈るような気持ちで再読み込みをさせるという非効率的なものでした。エラーの原因がその場でわからないと、公衆電話からテレフォニックで、仲間の学生と連絡をとり合ったりしていたものです。

今、こうして私の所有物であるパン



コンを使用
って原稿
を作成し、
急な連絡

と情報収集のための携帯電話が脇にある環境を思うと、私が卒業後、この十数年のIT環境の凄まじい変化には、ただただ驚くばかりです。

最近の大学生は、講義の休講連絡や簡易なレポートなどは、全て個人用のノートパソコンから、電子メールでやりとりをするのが日常茶飯事なようです。また、私の学生時代はパブルの全盛期でもあり、大学3年生の後半にもなる、こちらが就職活動を始める前にお誘いを受けたものでした。「自分はお誘いを受けたものではない、自分はお誘いを受けたものではない、自分はお誘いを受けたものではない」と周りに言っていると、不思議そうなお目で見られたのを、今でも覚えています。

現在の不況から来る、過去最高の失業率、生活苦による中高年層の自殺者増加のニュースなど、あまりに気の毒でいたたまれない気持ちでいっぱいになります。

今現在の私ですが、長年勤めた新発田高校から、この4月に新潟南高校に転勤となりました。両校とも、本大学の同窓の先生方が多数いらっしやる中で、様々な機会を通じて、ご指導ご鞭撻を頂いてまいりました。今後は中堅

教諭としての自覚を忘れずに、同窓の



後輩の人たちに対して少しでも役立つように、努力をしていきたいと思っています。

長岡工業高等学校の思い出

62理・物
西脇 正和

今年の春に、いままで過ごした県立長岡工業高等学校から県立教育センターへと異動となりました。長岡工業高校は、五年間という短い期間ではありましたが、大変充実した日々を過ごせたと満足しています。

創立百周年を三年担任で迎えられたということも幸運なことであり、思い出に残るものでした。また、なによりも生徒たちが素直で、実験はみんなが大好きでレポートの提出もしつかりとしており、理科教員としてはとてもいい環境だったと思います。部屋を同じ

くした教科の先生方も、個性のある、しつかりした方ばかりで色々と教えていただきました。それから、長岡工業高校の理科では伝統的に教科の先生方だけで毎年夏休み中に研修旅行を企画していました。それが本当に真面目な研修で、県内にそこまでやっている学校は他にないでしょう。毎年二泊三日の研修旅行は、一回一回が私にとっては大きな財産になりました。

一年目の六ヶ所村核燃料サイクル施設と松川地熱発電所、二年目の大鷹鳥谷山標準電波送信所と角田ロケット開発センターと東北電力原町火力・波力発電所、三年目のカミオカンデと乗鞍宇宙線観測所、四年目の筑波の高エネルギー研究所と東海村日本原子力研究所、五年目の高速増殖炉もんじゅと新型転換炉ふげん。私自身、もともと出不精であり、なかなか自分一人で行くとは思えないところでした。でも行くことが決まってしまうえば、一つくらい関係した本を読んでみたりインターネットで検索してみたり準備をしてお加させていただきました。また今述べた専門の研修場所の他にもう一つ、一般研修の場所でも作り観光も兼ねて行っていました。青森恐山、小岩井農場、筑波実験植物園と日光東照宮、天橋立と永平寺など、「夜の部」の研修とともに大変充実し研修旅行の幅を広げられました。



これらの研修に参加して得たものはその施設に関する知識だけではありません。そこに

いる研究者や勤務している方の熱意やブライドが伝わってきたりするとその場所

に人間的なおいが加わり、貴重な体験でした。またちよつど時を同じくしてこれら施設に関わる様々なニュースがあり、事前・事後の研修も充実させることができました。

有り難いことに異動してしまつた今年も参加のお誘いを受けたのですが、都合で行けそうもありません。非常に残念です。今年はどこに行くのでしょうか。

雑感

57 理工・数
志田 重道

文部科学省派遣教員として、平成12年4月から平成14年3月まで、マレーシアの首都クアラルンプールにあるマラヤ大学で、マレーシア人の学生に日本語で数学を教えました。彼らは、2年間マラヤ大学の予備教育部(18~19歳)で日本語と日本語に

よる教科(数学・物理・化学)の勉強をします。その後、マレーシアの国費留学生として日本の大学(主に国立大学)へ入学します。学生の大部分は工学部へ、若干名が医学部へ進学します。派遣教員の仕事は、2国間の教科教育のギャップを埋めることと大学の授業を受けることです。実際学生と接して感じたことは、

- ・ 大変まじめで純朴であり、一生懸命勉強する。
 - ・ 宗教(イスラム教)が生活の中に浸透している。
 - ・ 国を愛する気持ちが強く、将来国のために何かをしたいと思つている。
 - ・ 父母・師・年長者を敬つている。
- です。日本の学生の長所や短所を改めて考える良い機会を得ました。また、日本を世界やアジアの中でとらえる視点が出来ました。



新潟(柏崎)そして理科大

宮地 則男

昨年9月の異動で、新潟(柏崎)勤務となりました。

私にとつては、五年ぶり三度目の柏崎勤務ですが、ここ約二十年は本社(東京)と柏崎をいつたりきたりということもあり、自分にとつては何らかの節目となつている所です。

初めての勤務の時には結婚をしまし、二度目は管理職としての赴任でした。そういった意味で、三度目の今回はどの様な節目となるのか、楽しみでもあり不安でもあり、自分にとつて良かったと言えるように頑張りたいと考えています。

また、教職ではなく一般の会社勤めというところもあるとは思いますが、理科大の同窓の方との交流はあまり多くないので、こちらに来ると、理学会新潟県支部総会の案内を頂いたり(出席はなかなか出来ないのですが)この原稿を依頼されたりと理科大を身

近に感じます。今回の勤務期間中に理科大の同窓の方々との交流を深められたらと思ひます。

事務局から

() 理学会新潟県支部名簿について

- ・ 7月末までの情報を基に、記載事項の訂正及び追加。
- ・ 8月の支部総会で、参加者全員に配布。
- ・ 支部会費納入確認後、該当者に送付。

() 以後、希望する同窓に、実費配布(送料+)予定。

- ・ 会報「新潟理窓」について
- ・ 原稿依頼6月~7月。
- ・ 依頼原稿締切8月末(御協力を)。
- ・ 投稿原稿締切9月末(写真を含め、大歓迎)。

() 10月発行予定(事務局より直送)。

- ・ その他(お願い)
- ・ 会費納入のお願いに関わる行き違いをお許しください。
- ・ 会報は年1回の発行ですが、会社や学校のPR、家族の紹介、募集、交換等々何でも自由に投稿ください。紙面を増やしても対応します(掲載料は無料)。
- ・ 名簿の「情報」お寄せください。